

雄大な自然・歴史・文化・産業を体験する

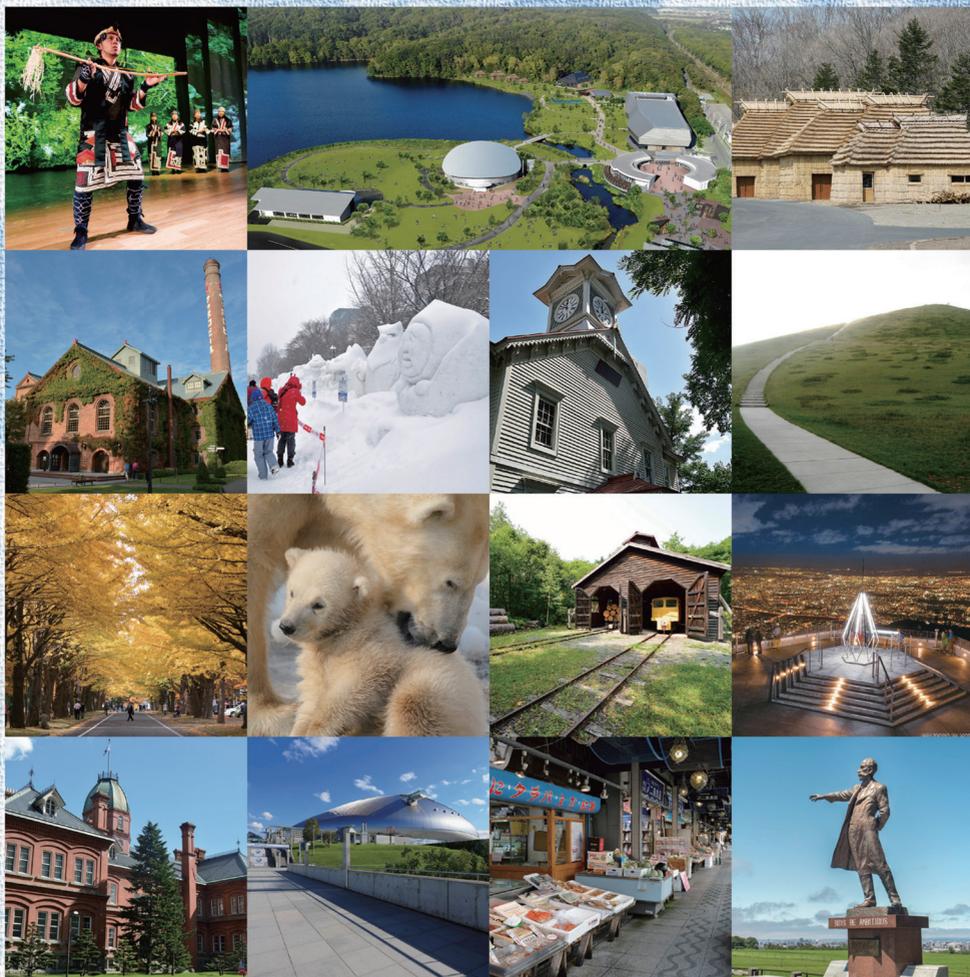
散策&観賞



多数の画像と充実した
ガイドの事前学習本！
アイヌ文化施設も特集！

札幌 市内編 + ウポポイ

最新版



散策&観賞 札幌市内編+ウポイ



| | |
|------------------|----|
| はじめに | 1 |
| 札幌市について | 3 |
| 北海道全図 | 1 |
| 札幌市周辺図 | 4 |
| 札幌市中心部図 | 6 |
| 北海道大学 | 8 |
| クラーク博士と札幌農学校 | 9 |
| 北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎） | 9 |
| 時計台 | 10 |
| 札幌ら〜めん共和国 | 11 |
| 大通公園 | 11 |
| 二条市場 | 12 |
| さっぽろテレビ塔 | 13 |
| さっぽろ雪まつり | 14 |
| サッポロビール園 | 15 |
| サッポロビール博物館 | 15 |



| | |
|---------------|----|
| 中島公園 | 16 |
| 八窓庵 | 16 |
| 豊平館 | 17 |
| 円山公園 | 17 |
| 北海道神宮 | 17 |
| 札幌市円山動物園 | 18 |
| 大倉山展望台 | 19 |
| 白い恋人パーク | 20 |
| 藻岩山 | 20 |
| 札幌市豊平川さけ科学館 | 21 |
| さっぽろ羊ヶ丘展望台 | 22 |
| 札幌ドーム | 23 |
| サンピアザ水族館 | 23 |
| 札幌市青少年科学館 | 24 |
| 北海道博物館 | 25 |
| 北海道開拓の村 | 26 |
| モエレ沼公園 | 27 |
| ウポイ（民族共生象徴空間） | 28 |
| 国立アイヌ民族博物館 | 30 |

| | |
|---------|----|
| アイヌ民族とは | 29 |
|---------|----|

| | |
|----|----|
| 奥付 | 32 |
|----|----|

札幌市について



日本最北の政令指定都市であり、全国の市の中では横浜市、大阪市、名古屋市に次ぐ4番目の人口を有しており、北海道全体の人口の約4割弱（約36%）を占めている。

アイヌの人々が暮らしていた蝦夷地は明治2年（1869）に「北海道」と改称され開拓使が置かれて札幌本府の建設が始まった。明治8年（1875）に最初の屯田兵が入植。札幌の建設計画は当時の開拓判官しまよしだけ官島義勇によって構想され、京都を参考にした街づくりは、そうせいぼし創成橋東側のたもとを基点に東西の基軸を創成川、南北の基軸を渡島通（現在の南1条通）として区画割を進めていった（現在の南北の基軸は大通公園となっている）。大正11年（1922）8月1日の市制施行以来、周辺町村を編入・合併して市域を拡大していった。

もともと「サッポロ」は豊平川とよひらがわにアイヌの人々がつけた名称で、その流路一帯の地名に転用されたものであるとされる。

気候は日本海型気候で、夏はさわやか、冬は積雪寒冷を特徴としており、四季の移り変わりが鮮明だ。4月から6月は晴天の日が多く、さわやかな緑に包まれ、花が集中して咲き乱れる。6月下旬から日中暑い日もあるが、本州地方のような梅雨は見られない。7月、8月でも平均気温が20℃から25℃程度で、本州と比べると、過ごしやすい夏である。9月に入るとひと雨ごとに気温が低下し、雨量も多くなる。10月には紅葉が始まり、最低気温が0℃近くまで下がることもある。10月下旬には初雪が見られ、12月上旬には根雪となり、12月から2月の冬季は、最深積雪は約1m、ひと冬の降雪量は約5mにも達する。3月に入ると、寒気も緩み始め、春分の頃（3月20日頃）には平均気温が0℃を超え、4月上旬には根雪の終日を迎える。

札幌の年平均気温はおおよそ9～10℃、年総降水量はおおよそ1,200mm前後。

今や北海道の中心都市札幌は、我が国の北の政治・経済・教育・文化の中心地である。

わずか150年余の間に発展した町であるが、現在は人口も200万人弱となっている。

緑豊かな大通公園や中島公園、ポプラ並木で知られる北海道大学や、絶景の藻岩山、清々しい羊ヶ丘展望台、全体をひとつの彫刻作品とするモエレ沼公園というように、市内は花と緑の自然に囲まれている。今人気の白い恋人パーク、市内一望のさっぽろテレビ塔もあり、時計台や赤いレンガの道庁旧本庁舎には、明治の開拓時代の面影が残る。

年間を通じて多くの観光客が訪れるが、「さっぽろ雪まつり」にそのピークを迎える。

札幌市周辺図



札幌市中心部図





北海道大学 地図P6D2

札幌市北区北8条西5
☎011-716-2111

JR線「札幌」駅から北西へ徒歩7分
修学旅行などの団体訪問は事前申込要、HP要
確認。

東京ドーム38個分という広大な敷地に12
の学部がある国立総合大学で、キャンパス
はハルニレ(エルム)やポプラ並木、イチヨウ
並木、大野池など緑があふれている。

北海道大学の前身は明治9年(1876)創
設の札幌農学校で、明治40年(1907)東北
帝国大学農科大学として大学に昇格し、大
正7年(1918)北海道帝国大学に、昭和24
年(1949)新制の北海道大学になっている。

正門横のインフォメーションセンター「**エル
ムの森**」で、北大構内やイベント情報の案内
をしてくれる。北大の見所をまとめた「キャ
ンパスガイドマップ」や学生によるオリジナル
の「ぐるぶら!北大キャンパスマップ」のほか、
歴史的建造物を紹介する「歴史的資産ガイ
ドマップ」を配布してくれる。

「**クラーク像**」は正門から少し行ったところ
にあり、観光客の人気の的。構内にはクラ
ーク像や、内観見学ができる重要文化財の**札
幌農学校第2農場**、外観見学のみだが**古河
講堂**(旧東北帝国大学農科大学林学教室)
らの歴史的建造物がある。

国重要文化財の「**札幌農学校第2農場**」



札幌農学校第2農場

は、明治10年(1877)に建設された模範家
畜房、穀物庫を中心とした一連の畜産経
営の施設を備えて、一軒の畜産農家を模
した実績・模範農場として発足した。中
でも模範家畜房は1階が家畜舎、広々した2階
は干草置場となっており、北海道の風土に
合った酪農業を進めるためのモデル施設で
もあった。また、大正元年(1912)に建設さ
れた緑飼貯蔵庫は現存する道内最古のサイ
ロと伝えられている。

国登録有形文化財の**古河講堂**は白い洋
風2階建ての校舎で、明治42年(1909)の
建築。中央に入口を設け、左右に翼部を伸
ばすルネッサンス様式の建築である。白磁
タイルのモダンな建物が、周りの芝生や木
立の緑に映える。

その他、多分野の学術標本などが見られ
る「総合博物館」、各種植物約4,000種を保
存する、広大な「植物園」(有料)、附属図書
館(本館・北図書館)、大学文書館、埋蔵文
化財調査センターなども訪れることができる。

近年は学食に行く観光客も多く、学食名
物の「牛とろ丼」が人気だそう。平日11時
30分~13時は学生・教職員が多く利用す
るので、この時間帯での利用は遠慮すること。

2020年8月現在、新型コロナウイルスの影響で札
幌農学校第2農場の屋内公開は停止中。埋蔵文
化財調査センターの団体見学は事前申込要。入
室は人数に制限があり、氏名・連絡先の記入が必
要。状況によりいずれの施設も訪問できない場合
があります。

クラーク博士と札幌農学校

札幌農学校は、明治9年(1876)8月に
設立された日本最初期の官立農学校で、現
在の北海道大学の前身。明治5年(1872)
開拓政策推進のために東京に開拓使仮学
校が設けられ、同8年に札幌に移され、そ
の翌年、農学を専門とする高等農学校とし
てスタートした。

開校にあたって、アメリカのマサチュー
セッツ農科大学からウィリアム・スミス・ク
ラーク(William Smith Clark、1826~
1886)博士が招かれ、教頭としてこの地へ
赴任した。

クラーク博士は、マサチューセッツ農科
大学の校則をもとに農学校の校則を編成し、
学生の指導にあたった。

敬虔なピューリタンであった博士は、当
時開拓長官であった黒田清隆(1840~
1900)を説得し、キリスト教の考えを取
り入れた新しい教育方針を実行していった。
学科の農学だけでなく、広い視野と教養を
もつ人間を育成するように編成された。

クラーク博士自らも学生と共に植物採
集や実験を行うなど、学生たちによく接し、
指導にあたった。

翌明治10年4月、クラーク博士は札幌農
学校を去り、帰国した。帰途に就くクラーク
博士が学生に残した"Boys, be ambitious"
(少年よ、大志を抱け)という言葉は永く人々
の心に残り、語り継がれていった。

彼のキリスト教精神の教えから影響を受
けた第一期生からは、佐藤昌介(後の北
海道帝国大学総長)らが、また一期生から
それを受け継いだ内村鑑三、新渡戸稲造と
いった国際人が輩出した。



北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎) 地図P7E3

札幌市中央区北3条西6
☎011-231-4111

JR線「札幌」駅西通り南口から徒歩約8分、地
下鉄南北線・東豊線「さっぽろ」駅10番出口から
徒歩約4分、地下鉄南北線・東西線・東豊線
「大通」駅2番出口から徒歩約9分

- 営業時間: 8:45~18:00
- 定休日: 無休(年末年始休)
- 料金: 無料

*リニューアルのため、2019年10月1日(火)
から休館中。赤れんが庁舎前庭は、7時から19
時まで解放されている。リニューアル後の営業
時間・料金などは要確認。





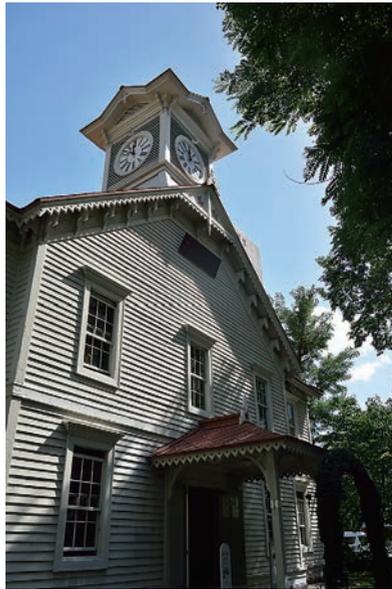
記念室（旧北海道長官知事室）

外壁の中心にある赤い星マークがシンボル。5万8千㎡の敷地内に緑に囲まれて立つ、青い屋根、赤煉瓦の建物で、前庭の池にその堂々たる姿を映している。春には桜やライラック、チューリップ、夏には豊かな緑やハマナス、秋には紅葉と、敷地内の庭には、四季の花々がたくさん咲き、散歩がてらの花見としても人気のスポットである。

ここは、明治21年(1888)にアメリカ風ネオ・バロック様式の開拓使札幌本庁舎として建てられ、以後約90年の間、北海道開拓の拠点として、「赤れんが庁舎」の愛称で親しまれてきた。

昭和43年(1968)、北海道百年記念事業の一環として修復され、同年10月に完工した。その翌年に重要文化財に指定されている。約250万個のれんがを使ったという。

内部には、代々の長官や知事が政務を執った記念室や、古文書を収納した道立文書館などがある。また、明治の札幌の街を再現したジオラマや北海道の開拓に関する絵画が飾られ、中でも、「北海道」の名付け親・松浦武四郎(1818～1888)が作り上げた26分割の北海道地図は、見応えある。



時計台 地図P7F4

札幌市中央区北1条西2-1-1
☎011-231-0838
JR札幌駅から南へ徒歩10分、地下鉄南北線・東西線・東豊線「大通」駅市役所側出口より徒歩約5分
■営業時間：8:45～17:10（最終入館17:00）
■定休日：無休（1/1～1/3は休み）
■料金：大人200円、高校生以下無料

白い時計台は札幌のシンボル。アメリカ開拓時代に流行した「風船構造」という建築様式で、赤い屋根と白い壁が印象的である。国の重要文化財にも指定されている、この歴史的建造物は、明治11年(1878)に札幌農学校の演舞場として建てられ、兵式訓練や心身を鍛錬する場などに使われていた。時計台はその3年後に設置されている。時計はアメリカのニューヨーク市のハワード時計商会にて作られた振り式のもので、今も毎正時、時を告げている。
農学校の移転により、明治39年(1906)



時計台1階

この時計台は札幌区が買い上げた。写真で見ると時計台だけがアップで写されているので、かなり高い建物のように見える。だが実際には周りの建物が高く、低い位置にあるので、少し拍子抜けする。しかし、その人気は高く、札幌を訪れる観光客は必ずこの時計台を訪れるという。

時計台の内部は資料館となっており、札幌市の歴史資料や札幌農学校に関する資料を展示するとともに、時計台で使われている時計と同じものがあり、その仕組みについて詳しく学べるようになっている。また、明治32年(1899)札幌農学校卒業生として初めて博士号を授与された佐藤昌介、南鷹次郎、宮部金吾の学位授与祝賀会の時の講堂の情景を再現している。夜間は音楽会、講演会、結婚式などのホールとして貸し出しをしている。

札幌ら～めん共和国 地図P7F3

札幌市中央区北5条西2丁目エスタ10階
☎011-209-5031
JR線「札幌」駅東改札口より徒歩5分、地下鉄南北線「さっぽろ」駅北改札口より徒歩約5分、地下鉄東豊線「さっぽろ」駅北改札口より徒歩1分
■営業時間：11:00～22:00（LO21:45）
※年末年始は営業時間が変更になる場合あり
■定休日：無休
■料金：入場無料



JR北海道グループの札幌駅総合開発株式会社が運営するJR札幌駅直結の商業施設「エスタ」10階レストラン街に、平成16年(2004)10月にオープンした北海道ラーメンのフードテーマパーク。国内有数のラーメン激戦区といわれる札幌に、道内から厳選された有カラーメン店8店舗が集結。卒業店舗も多く、新たな各店が競い合い、味もサービスもよりハイレベル。道内名店のラーメンなどを取り揃えたおみやげショップ「札幌ら～めん開拓舎」も併設されている。フロアは昭和の町が再現され、その雰囲気も楽しめる。

大通公園 地図P7E4

札幌市中央区大通西1～12丁目
☎011-251-0438
JR「札幌」駅より徒歩約10分、地下鉄南北線・東西線・東豊線「大通」駅すぐ、東西線「西11丁目」駅すぐ

札幌市の中心部に位置し、東西の長さが約1.5km、面積約7.8haにわたる公園は、公園という名称だが実は道路。明治4年(1871)、札幌中心部を南北に分ける火防線が作られ、これが後志通しりべしという道路になり、改称されて大通となった。札幌に北海道開拓使が置かれた時代の直後からの歴史を持ち、その後近代公園の先駆

北海道開拓の村 地図 P5H4

札幌市厚別区厚別町小野幌50-1

☎011-898-2692

JR線「森林公園」駅、東口のりばよりジェイ・アール北海道バス新22「開拓の村行き」に乗車(約11分)

■営業時間:9:00~16:30(10月~4月)、9:00~17:00(5月~9月) ※入村は30分前まで

■定休日:月曜(祝日の場合翌日)、年末年始 ※5月~9月は無休

■料金:一般800円、大学・高校生600円、中学生以下無料

明治から昭和初期にかけて建築された北海道各地の建造物を54.2haの敷地に移築復元・再現した野外博物館。

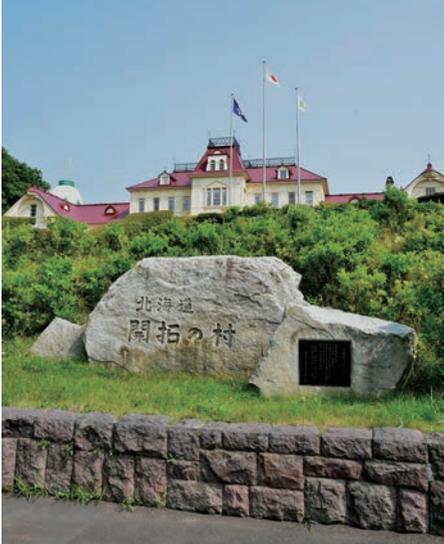
村内は官庁街・商店街・職人街・住宅街から構成される「市街地」、えいきていしよ とんでん 駅通所・屯田兵屋などの北海道独特の建造物がある「農村」、ニシン漁で繁栄していた時期に建てた住宅がある「漁村」、木材搬出のための森林鉄道機関庫がある「山村」の4群に分かれ、開拓当時の暮らしを再現している。



森林鉄道機関庫



旧藤原車轆(そり)製作所



旧小樽新聞社・旧開拓使札幌本庁舎、近代文学作家有島武郎ありしまたけおの小説「生れ出づる悩み」にも登場する旧有島家住宅などが建ち並び、明治時代にタイムスリップした気分になる。

村内を馬車鉄道、冬は馬そりが走り、観光客の人気を集めている。また、伝統遊具作りなどの体験学習もできる。



旧開拓使札幌本庁舎



旧山本理髪店

モエレ沼公園 地図 P5F1

札幌市東区モエレ沼公園1-1

☎011-790-1231

地下鉄東豊線「環状通東」駅より、中央バスで「モエレ沼公園東口(西口)」(所要25分)下車、すぐ

■営業時間:7:00~22:00(入園は21:00まで。 ※各ゲートにより異なる)

■定休日:無休(但し、園内各施設はそれぞれ休業日あり)

■料金:入園無料

豊平川(または石狩川)の河跡湖であるモエレ沼につくられた総合公園。世界的な彫刻家イサム・ノグチが基本設計を手掛けている。かつてはゴミの埋め立て地であったが、ノグチは「人間が傷つけた土地をアートで再生する。それは僕の仕事です。」と計画に参加したという。270万tの廃棄物の上に造成された約1.89km²の都市公園は、23年の歳月を経て平成17年(2005)に札幌を代表するアートパークとして再生された。

公園のランドマークは人工の山「モエレ山」。3方向5ルートから山頂へ登る階段があり、直線的な階段のほか、螺旋を描きながら緩やかに登る階段もある。札幌市東区唯一の山で、東区の最高点(高さ52m・標高62.4m)でもある。公園全体を見渡せる展望山といえるだろう。



ガラスピラミッド「HIDAMARI」



モエレ山

一際目を引くのは、中央東側沿いにあるガラスのピラミッド「HIDAMARI」。高さ約32mの三階建て、延床面積5,328m²を1,113枚のガラスで覆っている。内部は、屋外の天気等が反映され、夏は美しい緑や青空、冬には一面の雪の風景の美しさを建物の中で感じる事が出来る。おすすめは夕焼けが映る夕方の時間帯。グラデーションに染まる空がガラスに映り、芸術的な記念写真が撮れるだろう。館内にはギャラリーやテイクアウトショップ、フランス料理レストラン、展望台などがある。

また、公園の中央にある、最大25mまで水が噴き上がる「海の噴水」も注目。「海の嵐」や凧なぎを表現するダイナミックな水の動勢は「水の彫刻」と呼ぶにふさわしく、公園全体に生命の息吹を吹き込むかのようだ。1日3~4回、40分のロングプログラムと15分のショートプログラムがあり、夜にはライトアップもされる。(6月~8月のみ)

公園は「全体を一つの彫刻に見立てる」というノグチの構想により、幾何学形態を多用した山や噴水、遊具などの施設が整然と配置されている。春は桜、夏はモエレビーチがオープンし、秋はカラマツが黄葉、冬はクロスカントリースキーやソリ遊びなど四季の変化に合わせた楽しみ方ができる、自然とアートが融合する美しい空間になっている。



ウポポイ (民族共生象徴空間) 地図P1

先住民族アイヌの文化の復興と発展、国民理解促進の拠点として令和2年(2020)7月に開業した施設。民族名称である「アイヌ」という言葉は、「人間」などを意味するアイヌ語。「ウポポイ」はアイヌ語で「(おおぜいで) 歌うこと」を意味する。

ウポポイの主要施設は**国立アイヌ民族博物館**、**国立民族共生公園**、**慰霊施設**の3つに分れている。

国立アイヌ民族博物館は、アイヌ民族の誇りが尊重される社会を目指し、多くの人にアイヌの歴史や文化を伝え、アイヌ文化を未来につなげていくために設立された。博物館では約700点の民族衣装や工芸品、解説パネルを用いて、「ことば」、「世界」、「くらし」、「歴史」、「しごと」、「交流」の6つのテーマ展示でアイヌ民族について紹介する常設の基本展示室や、その文化を大画面映像で分かりやすく紹介するシアター、アイヌを取り上げた書籍を中心に取り扱うライブラリなどを通じてアイヌ文化への理解が深められる場所となっている。



国立アイヌ民族博物館



体験交流ホール

国立民族共生公園は、ユネスコ無形文化遺産に登録されている「アイヌ古式舞踊」やムックリ(口琴)・トンコリ(五弦琴)の楽器演奏を披露する体験交流ホールや、アイヌの伝統的な生活空間を体感できるチセ(家屋)群が再現されたコタン(集落)

から成る。他にもアイヌ料理の調理や試食、楽器の製作体験ができる体験学習館や、工芸品に関する解説や実演が行われる工房など、アイヌの文化を五感で感じることができる体験型フィールドミュージアムとなっている。

他にもショップ・レストランを備えたエントランス棟などもあり、学校団体向けには学習プログラムも行っている。



体験学習館



チセ外觀「伝統的コタン」



慰霊施設

※2020年8月現在、新型コロナウイルスの影響で一部体験を休止しております。

アイヌ民族とは

古くから東北地方北部、北海道、サハリン南部、千島列島に暮らしてきた先住民族。独自の言語「アイヌ語」を用い、^{しんらばんしょう}森羅万象あらゆるものをカムイ(神)と考えている信仰や、儀礼、特有のアイヌ文様に代表される豊かな文化を発展させてきた。狩猟採集のほか、畑で穀物や野菜を育て、毎年秋に川をのぼるサケを重要な食料の一つとしていた。一方で東北地方や大陸との交易も盛んに行っており、動物の毛皮などと、絹織物や金属製品などを周辺民族と取引していた。

しかし江戸時代からの松前藩による支配や、明治2年(1869)に新政府は蝦夷地を北海道と改め、日本の一部として統治と開拓をし、アイヌ独自の生活習慣を禁じ日本語を強制し、サケやシカをとることを禁じた「同化政策」により、その後多くの苦難



を歩んできた。

そうした中でも衣服や道具、伝統舞踊などアイヌの文化は脈々と受け継がれ、それを学び伝える活動が近年活発になっている。平成31年(2019)には、法律に初めてアイヌ民族を「先住民族」と位置付けた新法「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」が制定された。

あとがき

150年余り前、明治新政府が誕生してから北海道は大きな変革の時を迎えました。インフラ整備や工場建設、学校設置などが進められ、集団移住者と屯田兵による開拓を推進したのです。これにより北海道の産業は大きく発展し、現在の札幌市人口は約197万人と日本でも有数の大都市となりました。

一方でその発展の影には、先住民であったアイヌ民族の苦難の歴史があった事も記憶し続けなくてはなりません。本書を編集した令和2年(2020)は、アイヌ文化の復興・発展のためのナショナルセンターである白老町の「ウポポイ(民族共生象徴空間)」が開業した年であり、北海道の歴史と文化を学んで頂く良い機会であると考え企画しました。

広大な北海道のほんの一部ですが、県庁所在地であり学習・見学施設が豊富な札幌中心部と、ウポポイ(民族共生象徴空間)を収録しております。北海道を学ぶ教育旅行の一つのツールとしてお使い頂ければ幸いです。

最後になりましたが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響を受けている最中、快く写真をご提供頂きました各施設・各団体様に厚く御礼申し上げます。

写真協力

一般社団法人 札幌観光協会 公益財団法人 アイヌ民族文化財団 株式会社 札幌ドーム
国立大学法人 北海道大学

観光問合わせ先

| | |
|---------------|----------------|
| 一般社団法人 札幌観光協会 | ☎ 011-211-3341 |
| 北海道さっぽろ観光案内所 | ☎ 011-213-5088 |
| 大通公園観光案内所 | ☎ 011-211-2376 |

※本誌は、2020年8月現在判明分の資料に基づき編集した最新版です。
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で営業時間を変更する場合がございます。ご注意ください。
本書掲載の地図は、国土地理院発行の地形図をもとに作成いたしました。
本書の記事、データ等の無断転載・複製をお断りします。©ユニプラン 2020

散策&観賞札幌市内編+ウポポイ

第1版第1刷 定価 本体400円+税

発行日 2020年10月1日

編集スタッフ ユニプラン編集部

デザイン 岩崎宏

発行人 橋本良郎

発行所/株式会社ユニプラン

〒601-8213 京都府京都市南区久世中久世町1-76

TEL. 075-934-0003

FAX. 075-934-9990

振替口座/01030-3-23387

印刷所/株式会社プリントパック

ISBN978-4-89704-512-2 C2026